



富士山エコレンジャー連絡会 代表幹事

吉永耕一さん

Interview



## 富士山の自然を守り、 後世に託す

### ふじさんネットワークに 入会したきっかけ

私は富士山の自然とその保全を学び、大好きな富士山に関わりたいと考え「ふじさんネットワーク」に入りました。富士山との出会いは、学生山岳部での「冬富士」合宿です。冬富士の厳しさをこの時に体感しました。社会人になると、なかなか山に登る時間を作れません。しかし50歳を迎えるころに氷河の山に登りたくなり、山登りを再開しました。北米の自然公園へ行く機会が幾度もあり、氷河の山々に登りました。氷河の山を登っている最中にはいつも、雪の富士山が心の中にありました。レーニア山に登頂した翌年の元旦に、「富士山とレーニア山日米交流」の記事が目に残りました。レーニア山で活躍する日本人学生ボランティアと、大戦で苦勞した日系人がレーニア山を「タコマ富士」と呼び、「心のふるさと」として勇気づけられた話です。その記事を読み、夏にレーニア山国立公園を再訪しました。レーニア山には日本人学生ボランティアと国立公園局が協働して整備した、車いすでも通行できる遊歩道がありました。私はこの素晴らしい

成果を目の当たりにし、深く感動しました。これをきっかけに、私は大好きな富士山の自然環境保全活動をするボランティア「富士山エコレンジャー」に応募をし、入会しました。

### 富士山の自然環境を 保全するための活動

2005年に富士山エコレンジャーになつてからは、妻とともに環境パトロールを行っています。来訪者の方と会話したり、富士山の自然の素晴らしいさをお伝えしたり、動植物や登山道、ハイキングコースの状況を記録し報告しています。環境パトロールと説明会を合わせて、いつの間にか270回を超えました。特に、2012年



日本人学生ボランティアが整備に携わったレーニア山の遊歩道(2001年)



熊対策用の鈴とスプレー

から現在も続けている大規模トレイルラン・レース環境調査が重要な活動となつています。富士山南麓の樹林帯に代表される柔らかな土壌の歩道は、大勢のランナーの走る衝撃には耐えられません。「歩道自体の荒廃」、「周辺植生の損傷」、「森をはぐくむ土壌流出の加速」など様々な問題が生じるのです。ハイキングのような歩く衝撃ではなく、何百人、何千人ものランナーが走り抜けることは富士山へのダメージが非常に大きいのです。そのため、レース後の歩道及び周辺環境の変化を記録する調査を継続しています。

### 後世に富士山の 自然環境を残すために 必要なこと

ボランティア活動をしている方は、高齢の方が多いという現状が課題です。若者にも、富士山の自然に興味、関心をもってもらうことが肝要です。





子どもたちに富士山の自然の素晴らしさを伝える(2019年)

若い人たちはボランティア活動にも積極的に参加して、自然に触れる機会を作ってほしいと思います。富士山の環境変化は、自然の変化による影響だけでなく人間の利用の仕方にも問題があります。外来植物も、これに当てはまります。人間の活動により、地域の外から植物が持ち込まれるのです。外来植物の侵入は、本来あるはずの植物やその植物に依存した生活を送る動物に大きな影響を与えます。『富士山を訪れる人々が全員、自然の負荷を減らして

安全に利用する』、こういった姿勢が、後世に富士山の自然環境を残すためには非常に大切なことです。自然への負荷を減らすことは、先人によって、保全を決議して制定された「富士山憲章」や、「富士山総合環境保全指針」の要であり、富士山を利用する際は、これらの指針等を今一度確認することが重要です。

### これからの活動について

これまで、自然林回復など富士山自然環境保全活動に参加してきました。活動当初から今まで、様々な自然環境の変化を見してきました。これからも私たちが知らない富士山が顔を出すことになるでしょう。富士山エコレンジャーや富士山エコサポーターの仲間とともに富士山の恵みをたのしみながら環境パトロールに出かけ、より多くの方に、富士山の自然環境の豊かさや現状、保全の大切さを知ってもらえるように働きかけたいと考えています。富士山は2013年に世界文化遺産に登録されました。次は、世界自然遺産も含めた複合遺産への登録に向けた取り組みをふじさんネットワークに期待しています。



笑顔が似合う富士山エコレンジャー(2019年)

#### よしなが こういち 吉永耕一氏

- 1950年生まれ(70才)
- 富士山エコレンジャー連絡会 代表幹事
- 富士山自然観察の会 家族会員

富士山周辺で四季を通して活動しています。今年度は、富士山に登れないので、富士山自然休養林の利用調査等に注力しています。平素は、日本固有の針葉樹観察や自然に親しむための歩道の荒廃に関心を持ち、歩道の支持力や周囲の植生の変化に着目してパトロールをしています。富士山エコレンジャーの吉永厚子氏と共に、夫婦で活動しています。



世界文化遺産の登山道を解説